

2018年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏名
人間健康学部 人間健康学科	助教	中野 匡隆
最終学歴	学位	専門分野
中京大学大学院体育学研究科博士前期課程修了	修士 (体育学)	スポーツ生理学

I 教育活動

○目標・計画

(目標)

スポーツ生理学やトレーニングの基礎知識の学修について「真面目」に自ら学ぶことを創出し、「真に信頼して事を任せうる人格の育成」を達成することを目標とする。

(計画)

自ら主体的となつての学修を評価する指標を「事前事後学習」とし、その機会を増やすため、教材を大学内サーバーへアップロードしたり、授業の前後に復習の小テストなど多く用いたり、その点数を振り返り、一定以上の点数が取れなかった場合の再チャレンジの用意をしたりすることは継続しつつ、自ら考えたレポート作成ができるようにルーブリックなどを活用する。

○担当科目（前期・後期）

(前期) 生理学、運動生理学、総合野外活動実習Ⅰ、東邦プロジェクトB、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

(後期) トレーニング実習、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、卒業研究

○教育方法の実践

学生がイメージしやすいようにできるだけ動画や図表を多く使用し、視覚的に理解できる授業を行うよう努めた。また、復習のための小テストなどを毎回実施することで事前事後学習を誘導しようとしたがアンケート結果には反映されなかった。

○作成した教科書・教材

授業の内容をより理解しやすくするための動画や配布資料を作成した。

○自己評価

演習では専門知識量と学修へのモチベーションの改善を試みるも全体的にはうまく出来なかった。どうしても個別対応が多くなり、現在の授業方法、運営方法では限界を感じた。今後は学生同士が横のつながりで切磋琢磨できるような運営方法を模索していきたい。

II 研究活動

○研究課題

- ①運動・スポーツ・トレーニングにおける人工炭酸泉足浴の効果の検証
- ②地域高齢者の体力測定
- ③キャンプ実習における生理学的指標の測定

○目標・計画

(目標)

- ①運動・スポーツ・トレーニングにおける人工炭酸泉足浴の効果に関するデータ収集
- ②地域高齢者の体力測定を実施する。

③キャンプ実習における生理学的指標の測定を実施する。

(計画)

- ①共同研究者の協力を得て、新たな実験を実施し、データを収集する。
- ②地域に学生と一緒に高齢者の体力測定と活動量の測定をできるだけ多く実施する。
- ③キャンプ実習中における生理学的指標の測定を実施する。

○2011年4月から2019年3月の研究業績（特許等を含む）

(著書)

- ・尚爾華・澤田 節子・谷村祐子・肥田 幸子・中野匡隆・木野村嘉則、高齢者の健康維持と運動『長寿社会を生きる 一地域の健康づくりをめざして一』地域研究創造叢書 唯学書房 2017年3月

(学術論文)

- ・中野 匡隆『運動によって誘発される遅発性筋痛に対する人工炭酸泉浴の影響』東邦学誌 47(2), 101-107、2018.12
- ・葛原憲治、長谷川望、中野匡隆『スキー・スノーボードの傷害について Skiing and snowboarding injuries』東邦学誌 45(2), 15~24, 2016.12
- ・T. Kato, T. Matsumoto, A. Tsukanaka, M. Nakano, R. Ito, M. Amano, M. Cole, and SM. Yamashiro, Effect of hypercapnic severity on plasma ammonia accumulation and respiratory exchange ratio during incremental exercise, International Journal of Sports and Exercise Medicine 2015
- ・澤田節子・肥田幸子・尚爾華・中野匡隆『地域在住高齢者の健康維持活動支援に関する調査』東邦学誌 44(2), 117-139、2015.12
- ・山下直之、伊藤僚、中野匡隆、松本孝朗『高校生アマチュアボクシング選手のウェイトコントロールの状況分析』スポーツ健康科学研究 36: 11~19、2014
- ・水野貴正、中野匡隆、松本孝朗、梅村義久『人工炭酸泉への入浴時間の違いが関節可動域に与える影響』日本生気象学会雑誌 49(4) : pp. 149-155、2012
- ・中野匡隆『人工炭酸泉浴へ期待される効果-入浴施設利用者へのアンケート調査より-』東邦学誌 41(1), 163-168、2012
- ・加藤貴英、中野匡隆、伊藤僚、天野雅斗、松本孝朗『高炭酸ガス吸入が漸増負荷運動時の心循環系応答に及ぼす影響』中京大学体育学論叢 52(2) : pp. 11-16、2011
- ・中野匡隆、伊藤僚、天野雅斗、加藤貴英、坂口結子、山下直之、勝又信征、深谷高治、成田龍生、松岡大介、松本孝朗『学生トライアスロン競技のエネルギー消費量と運動強度の推定』中京大学体育学論叢 52(2) : pp. 1-9、2011
- ・水野貴正、中野匡隆、松本実、松本孝朗、梅村義久『人工炭酸泉浴が関節可動域と筋の弾性に与える影響』日本生気象学会雑誌 48(1) : pp. 15-22、2011

(その他)

[研究報告、研究ノート等]

- ・松本孝朗、中野匡隆、伊藤僚、天野雅斗、山下直之、勝又信征、道家三穂、大坪鷹人、松岡大介『市民ランナーにおけるフルマラソンの運動強度とエネルギー消費量』中京大学体育研究所紀要 25 : pp. 17-21、2011

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

○所属学会

日本体力医学会、日本体育学会、日本生気象学会、日本運動疫学会、運動と体温の研究会

○自己評価

①②③ともに、まったく研究を進めることができず、評価できない。次年度は業務内容の効率化も考えながら、進めていきたい。

III 大学運営

○目標・計画

(目標)

学生委員会で積極的に提案する。

(計画)

学生委員会で今まで積み上げてきた協議をもとに、とくにクラブ活動の活性化について、より良い大学を目指した提案を行う。

○学内委員等

地域創造研究所運営委員会委員、学生委員会委員、硬式野球部顧問（副部長、強化指定クラブ）

○自己評価

所属委員会にて提案は幾つがしたが、達成はできなかった。

IV 社会貢献

○目標・計画

(目標)

地域高齢者のいきがづくりへの寄与

(計画)

2014年から名東区内および近隣にて、延べ複数回のペースで教室などを開催している。2018年度は、さらに積極的に、学生に関わってもらい、規模を拡大し、社会で健康に関する知識を実践する学びの場とする。

○学会活動等

○地域連携・社会貢献等

○自己評価

ゼミ学生募集の段階から実施内容を詳細に説明し、取り組んだが、予定していた学生の関りを作ることはできず、社会で健康に関する知識を実践する学びの場とすることが、一部でしかできなかった。ゼミで集まった学生のモチベーションや興味のベクトルの違いからなかなか難しい側面があることを去年に引き続き感じた。次年度は、学生を巻き込まない方法も加えて効率的な運営を目指したい。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

VI 総括

年々と、教育活動および研究活動にバランスよく取り組むことができなくなっている。しっかりと研究を実施していくこと考えて年間計画を立て、そのうえで、教育活動が効率よく運営で

きるようにしたい。

以 上